

## 地域公益活動の状況把握調査 報告書

### ・調査目的

長期化しているコロナ禍の地域公益の活動状況、課題や工夫、地域課題を踏まえた新たな取組み、今後の活動方針、区市町村ネットワークへの期待等を把握するため標記調査を実施した。また、令和2年度に実施した状況把握調査結果と比較して考察する。

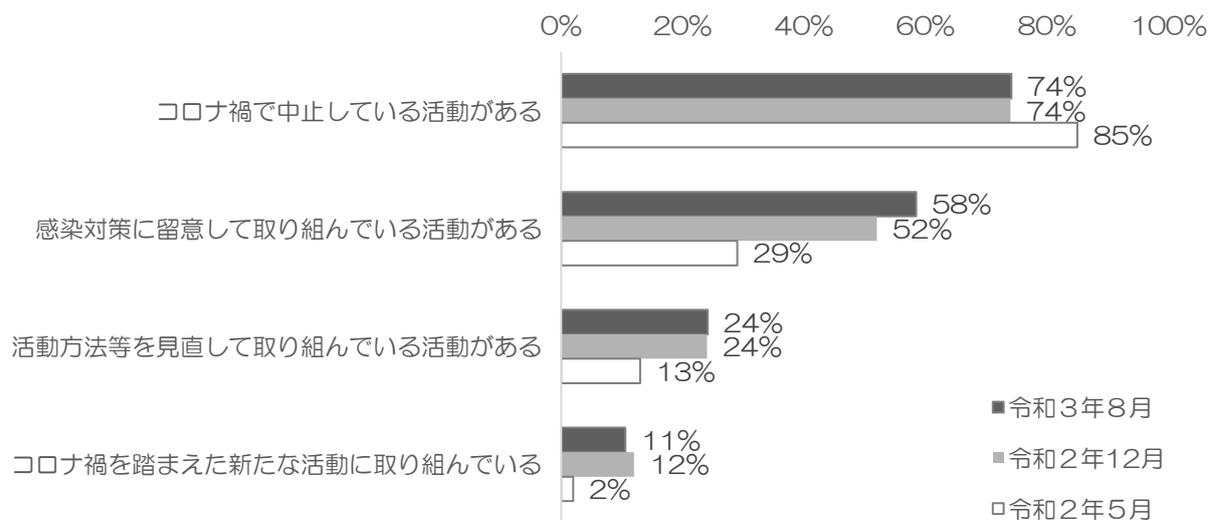
- ・調査対象 東京都地域公益活動推進協議会 会員施設・事業所（社協本体は除く）
- ・配布数 981 箇所
- ・回答状況 308/981（回収率：31.4%）
- ・実施方法 Web フォームによる回答
- ・実施時期 令和3年8月17日～8月31日

## I 調査結果の概要

### 1 コロナ禍の地域公益活動の取組み状況

- ◇ 「コロナ禍で中止している活動がある」は7割強と依然として多かった。前回調査（R2.12）と比較すると、「感染対策に留意して」は6%増えていた。
- ◇ 種別ごとの比較では、高齢は「感染対策に留意して」が平均より少なく、障害は「感染対策に留意して」が平均より多く、保育は「感染対策に留意して」は少なく、「活動方法を見直して」が多かった。

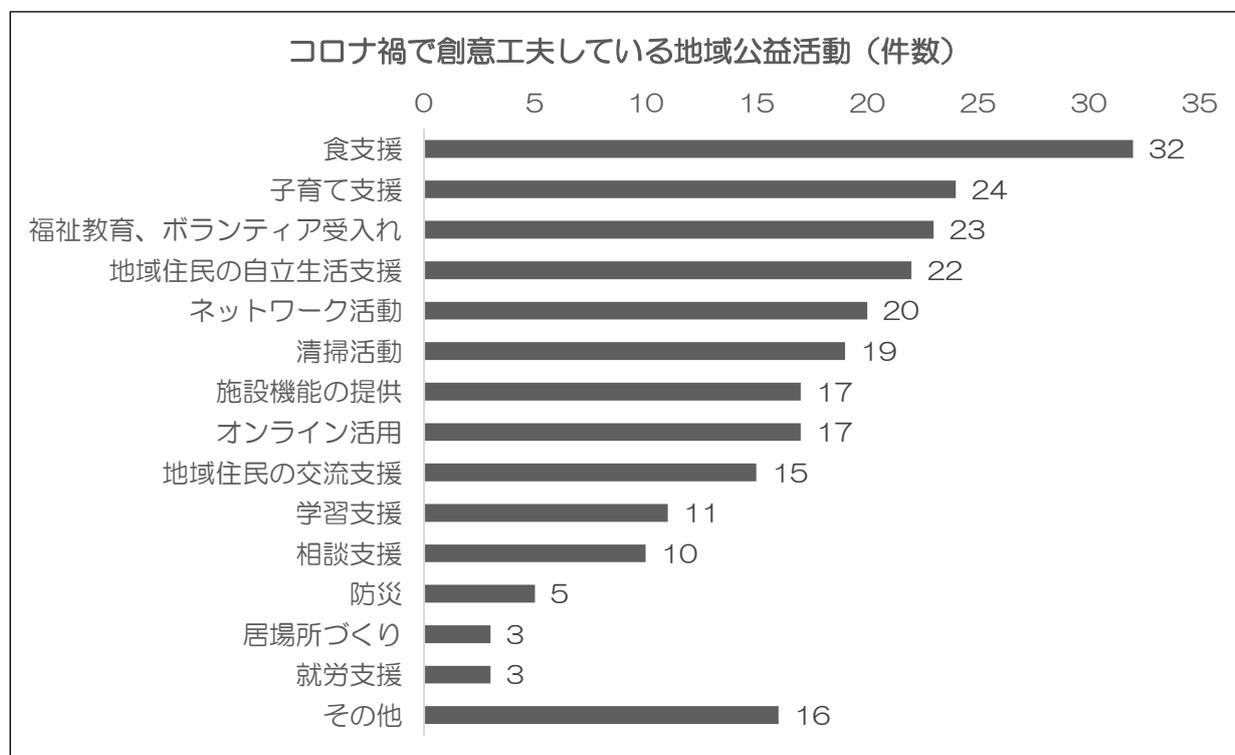
コロナ禍の地域公益活動の実施状況（複数回答）



令和2年5月は法人向け調査  
 令和2年12月、令和3年8月は施設・事業所向け調査

## 2 コロナ禍の地域公益活動の取組み内容と工夫

- ◇ コロナ禍で継続している活動は、「食支援」が多く、ついで、「子育て支援」「福祉教育、ボランティア受入れ」であった。コロナ禍で新しく始めた活動の多くは、オンラインを活用していた。
- ◇ コロナ禍でも継続している活動は、感染対策の徹底、活動場所を施設内から地域スペースや屋外に変更、オンライン活用、食事や情報等を届ける活動に変化などの工夫をしていた。



### コロナ禍で地域公益活動を取組む際の工夫

- ・ 検温、手洗い、人数制限、換気、住所の登録、ソーシャルディスタンスの推奨
- ・ 感染対策が行える場所を地域の方にお借りして開催
- ・ 広く使える地域交流スペースの積極的利用。
- ・ SNS を活用し、参加出来ない方のための情報発信などを行っている。
- ・ オンラインなどの技術は活用していきたいと考えているが、地域公益活動への活用までには施設側・対象者側ともに設備面やリテラシーなどまだ課題が多い。
- ・ ボランティアの方には、新聞など発行し定期的に連絡を取っている。
- ・ お弁当、カフェのテイクアウト
- ・ 住民やボランティア、約 180 名に「コロナ禍での住民アンケート」を実施し、現在の生活上での困りごと、ボランティアや地域活動に対するニーズを聞き取りした。

## <コロナ禍で創意工夫している地域公益活動>

### **長淵福祉会 カントリービラ青梅** NPO と子ども食堂・フードバンクを立ち上げ

子ども食堂にて、食事提供と学習支援を週1回開催。開催日以外は、交流スペースとして地域の団体に貸出し、体操教室やカフェ等に利用。2019年にフードバンク青梅を立ち上げ、活動するNPOや個人へ食材を提供してきた。今年7月からは、コロナ禍で新たに生じた食材提供ニーズに幅広く対応すべく、地域のNPO・ボランティアグループとフードパントリーOMEを立ち上げ、その中で食材の集配拠点としての機能を果たすようになった。

### **フロンティア いけぶくろ茜の里** 利用者が作ったパンをホームレス支援団体に提供

地域の学習支援に通う子どもたちに、通所事業で利用者が作ったパンやクッキーを無償提供。利用者とともに会場まで運び、子ども達の喜ぶ様子がやりがいにもつながっている。地域の子ども食堂へのパンの提供も9月から開始。二週に一度、作ったパンをホームレス支援団体に提供している。

### **アゼリヤ会 みやま大樹の苑** 市・社協と連携したフードパントリー

コロナだからこそ必要な取組みをということで、市・社協・団体にて仕組みを検討。フードバンク団体の依頼により、8月からフードパントリーを開始。市内4拠点のうちの一つとなり、地域の生活に困っている方（希望者）へ食品をお渡ししている。施設内に入らずに済むよう玄関で対応。

### **武蔵野 ゆとりえ** 応援弁当を200円で提供

経済的に大変な方を念頭におき、週1回昼食弁当を200円で提供。フードロス対策を前面に出し、子育てや介護、学生などへの応援弁当としている。

### **賛育会 清風園** 中学校の敷地を借りてお弁当販売とフードバンク

施設で会食していた「子ども食堂」を、地域の中学校の駐車場をお借りしてお弁当販売へ変更。子どもたちだけでなく、地域住民に対象を拡大した。同じ場所でフードバンクも実施。

### **朝日会 石井こども園** オンライン検討も、対面で子育て支援

お話ひろばや離乳食会など、コロナ禍前は子育て支援室で実施していたが、密を回避することが出来なかったため活動を停止していた。WEBで行おうと試みたが、絵本や紙芝居の作者の許可を得ないといけないため難しかった。地域の保護者から「WEBより対面の方が良い」という声が多く、参加人数を2組にしてお話会を実施。

### **青梅ゆりかご保育園 青梅ゆりかご第二保育園** 短時間のボランティア体験

コロナ前は地域の子どもたち対象に、夏の学習会や体験活動、昼食の提供を行っていた。コロナ禍では卒園児を中心に、夏のボランティア体験に変更して実施。一時間程度の軽作業の手伝いや短時間で園児との関わりを体験した。

### **東京援護協会 東が丘福祉工房** ボランティアを学ぶ講座を開催

ボランティアを実施したいが、コロナ禍で受け入れ先がない中で、ボランティアに興味のある地域住民に向けて、車イスの操作方法や、食事の際に使用する自助具等の紹介など介助者養成講座を開催。地域の方々とのつながりを継続していくために、直接的な関わりだけではないボランティアの受け入れを行った。

### **平尾会 ひらお苑** 感染対策して買い物サービスを継続

市と協力しながら、交通不便地域に8人乗りワゴン車を週1回運行し、主に高齢者の買い物や近隣の病院に行くための足代わりとなっている（無料）。感染対策として、乗車時の検温や消毒、降車時の車両消毒、運転手と後部座席との間仕切りをしている。

### **二葉保育園 二葉学園** 感染対策してリラックスヨガの開催

地域リラックスヨガは、人数を減らし距離を保って実施。消毒箇所等リストにし使用前後で消毒。利用者の健康調査カードの記入をしている。

### **東京聖労院 清雅苑** 施設の屋外敷地をパン販売等に貸し出す

コロナ禍前は、場所の貸し出しとして、デイサービスが利用しない日曜日に介護予防の体操を行う団体への場の提供や、子ども食堂団体に地域交流スペースの貸出等を行い、手伝いを担っていた。現在はコロナ禍で施設内の貸し出しは難しいが、施設外の敷地内で何かできないか検討し、障がい者団体が行う出張パン販売や社協が行うフードバンクの会場として利用していただいている。

### **多摩養育園 養護老人ホーム竹の里** 福祉なんでも相談の実施

コロナ禍にあり、いろいろな悩みや困りごとが急増している中、地域の相談窓口として「福祉なんでも相談」を開設した。

### **芙蓉会 町田市南第1高齢者支援センター** オンライン初心者教室の開催

高齢者支援センターとして、憩いの場に行くことができず、生活不活性化、下肢筋力低下を心配する住民の声が多く寄せられたことから、オンライン初心者のための教室やオンラインを使った体操教室を実施。

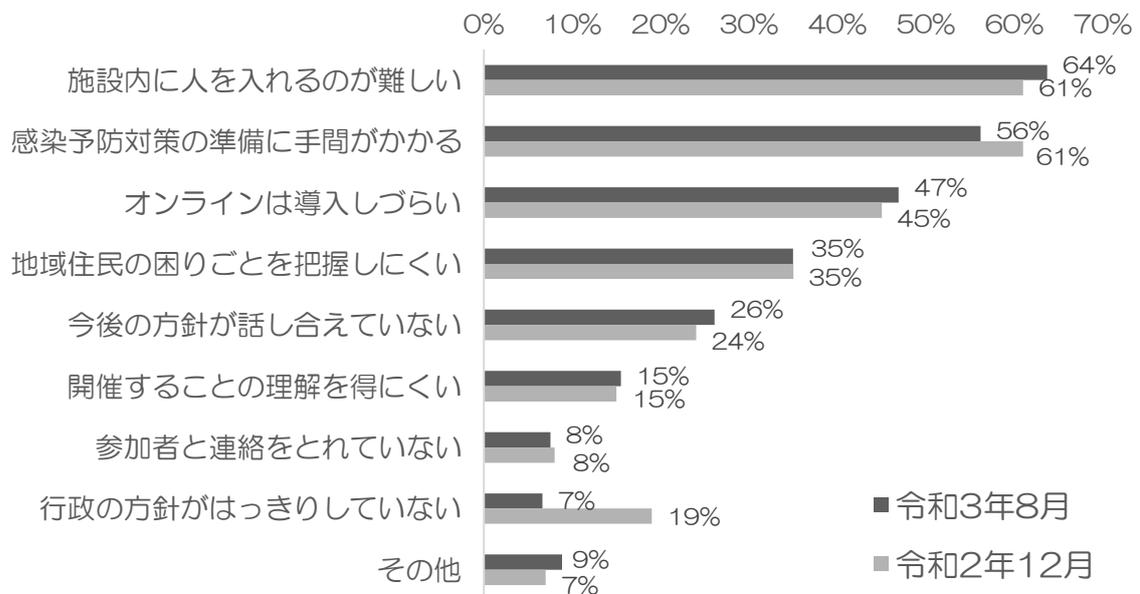
### **武蔵野会 リアン文京** 高齢者向けのスマホの使い方相談を開催

高齢者や地域住民向けの運動や趣味活動の講座は、外に出かけること自体がフレイルの対策となるため継続実施。1回あたりの参加人数を減らし、実施回数を増やすことで参加の機会を保障。緊急事態宣言下でインターネットにアクセスできない方たちが情報に取り残され、ワクチンの予約すらできないという現状を目の当たりにし、高齢者のICTの活動に力を入れている。週1回スタッフが「よろず相談」という形でスマホの初歩的な質問を受け、専門家に来てもらう講座などを開催。

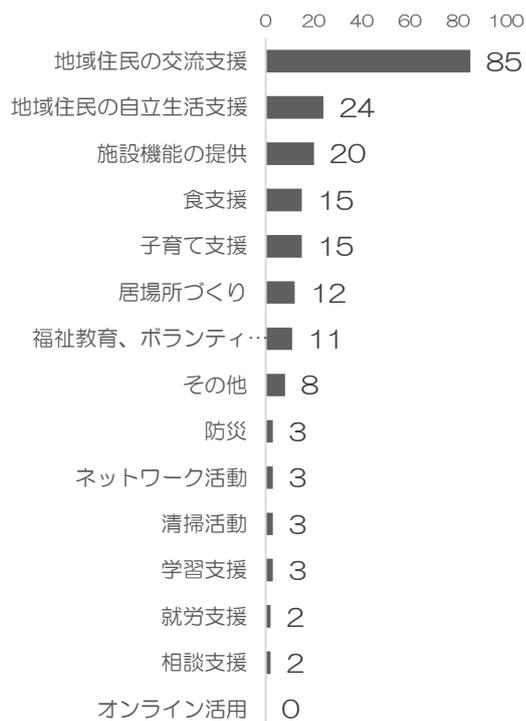
### 3 コロナ禍で取り組むにあたっての課題と中止している活動

- ✧ コロナ禍で取り組むにあたっての課題は「施設内に人を入れるのが難しい」が最も多く、ついで「感染予防対策の準備に手間がかかる」「オンラインは導入しづらい」であった。
- ✧ 中止している活動は、地域住民とかかわる活動、福祉施設に不特定多数の人を招き入れる活動が多かった。

コロナ禍で取り組むにあたっての課題（複数回答）



コロナ禍で中止している地域公益活動

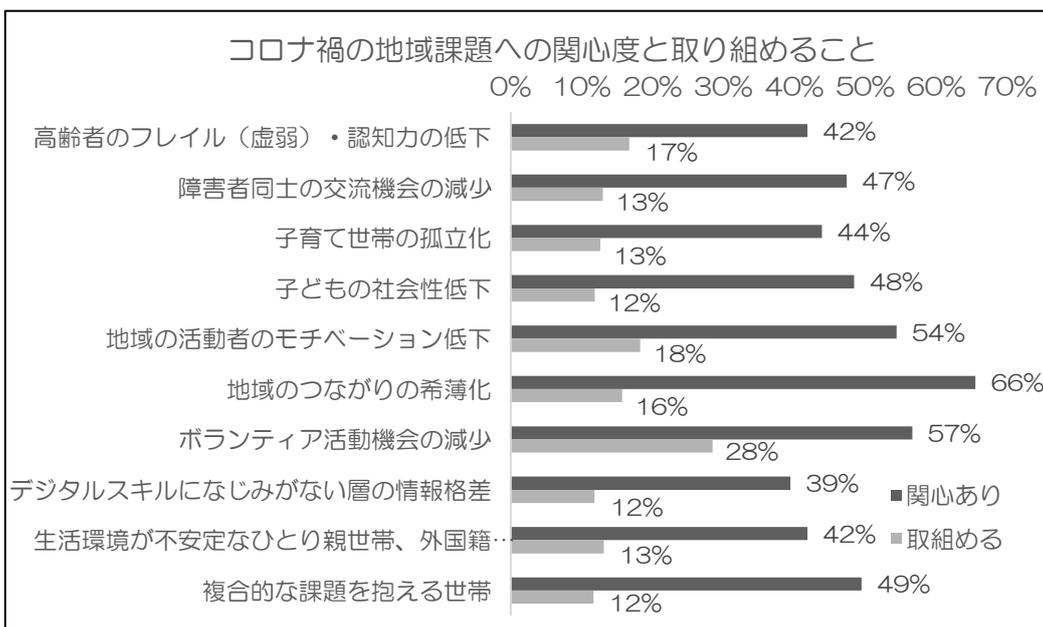
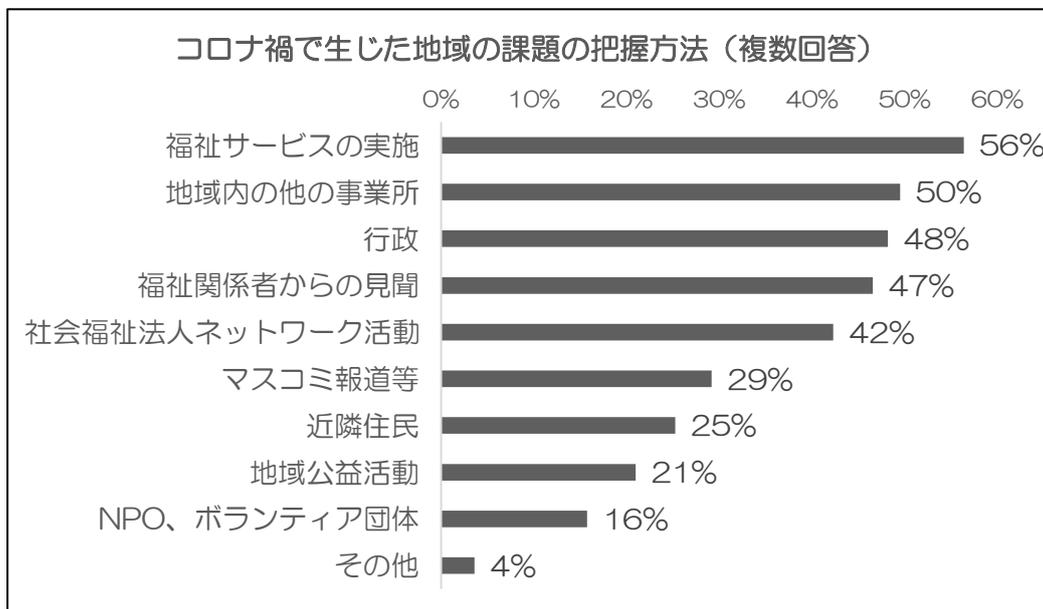


コロナ禍で中止している活動（抜粋）

- ・ 地域住民に事業所の敷地、設備を貸し出して開催していたフリーマーケットを中止。
- ・ 病院や福祉施設と協働で行う地域イベントを中止している。
- ・ リハビリ活動の地域開放などを中止。現時点では見通し不能。
- ・ 介護予防教室等へのホール貸し出し、自治会と共催行事は昨年から中止している。
- ・ 地域園庭開放、子育て支援相談、夕涼み会、卒園児親睦会、地域親睦会は中止。
- ・ はたらくサポートとうきょうは、コロナ感染拡大が落ち着いてから受入再開予定。

#### 4 コロナ禍の地域課題の把握

- ✧ 地域課題の把握方法では、施設に関係がある「福祉サービスの実施」「地域内の他の事業所」等の回答が多かった。一方、コロナ禍で関係性が築きにくい「近隣住民」「NPO、ボランティア団体」の回答は少なかった。
- ✧ 地域課題の関心が高いのは、「地域のつながりの希薄化」「ボランティア活動機会の減少」「地域の活動者のモチベーション低下」など、地域にかかわる回答であった。「関心がある」と「取り組める」の差が大きかったのは「地域のつながりの希薄化」「複合的な課題を抱える世帯」と、施設が関係を築くことが難しい、施設単独ではかかわりにくい内容であった。
- ✧ 「貧困・低所得へ問題に対する施設の考え」の設問に約7割の施設が回答していた。施設機能を生かした取組みであればしている・可能であるという回答がある一方、「貧困・低所得の実態がわからない」等の回答もあり、区市町村ネットワークや行政等の関係機関と連携して取組みたい等の回答がみられた。

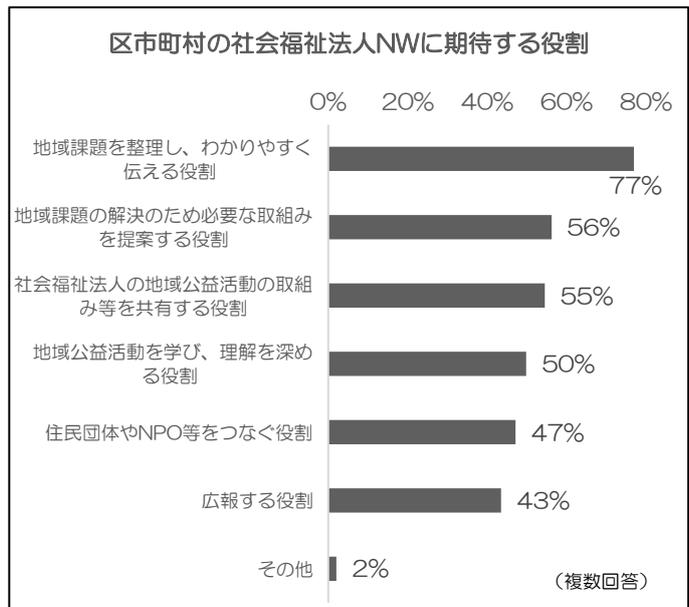
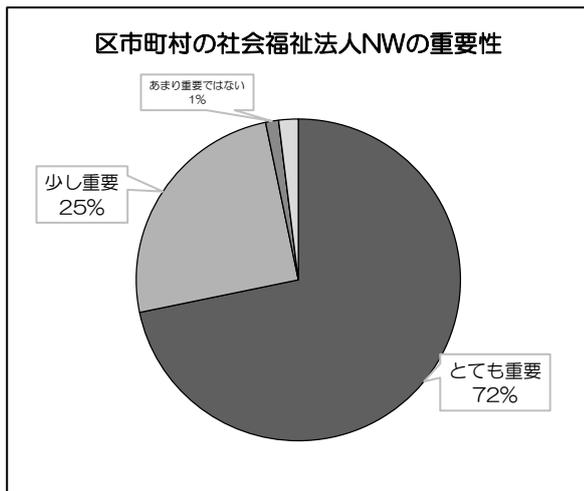


## 「貧困・低所得」に対する施設の考え

- ・ 施設の有している設備・機能を使って、貧困、低所得者のニーズに対応できればと考えている。例えば厨房設備を活用して、フードドライブ、ひとり親世帯への配食など。
- ・ 保育園として地域の子育て家庭とつながっていきたい。一時保育や子育てひろばにも力を入れ、気になることがあった時には関係機関と連携をとっていきたい。
- ・ 福祉業界は常に人材不足。福祉業界への転職、就労者の収入安定につながることを期待。
- ・ 報道では見聞きしますが、地域の中では埋もれてしまっている印象。現在は交流もない中、地域の課題を把握するのがとても困難。力になれることがあれば尽力したい。
- ・ 施設への入室制限や外出制限あり。他者との接触制限も行っている状態で、施設として動くことができない。
- ・ 現状では、コロナ禍を防ぎながら、事業を継続するので精一杯である。
- ・ 行政と連携して、社会福祉協議会と各社会福祉法人が主体に行動することが大切。
- ・ 事業所として何らかの支援を行いたいが、具体的な活動には至っていない。事業所単体ではなく、ネットワークの中に参画することで貢献できれば効果的ではないかと考えます。

#### 4 区市町村の社会福祉法人ネットワークへの期待・取組みたいこと

- ◇ 97%が「区市町村の社会福祉法人ネットワーク」が重要と回答していた。ネットワークに期待する役割では、「地域の課題を整理し、わかりやすく伝える役割」「地域の課題を解決するため、必要な取組みを提案する役割」「社会福祉法人が集まり、地域公益活動の取組み等を共有する役割」があげられていた。
- ◇ ネットワークで取組みたいことでは、社会福祉法人・施設が情報共有し、分野を越えた連携による新たな取組みへの期待が多かった。また、災害時の相互協力への期待や、生活困窮者への食や学びの支援などの回答があった。



#### 区市町村ネットワークで取組みたいこと

- ・ 法人単独では行いにくい事業も、他法人と一緒に取り組むことでできることもあるため、情報共有しながら進めていきたい。
- ・ 各々の法人が得意とする分野をこえた連携による新たな取り組みや機能性・機動力の創出。
- ・ 大規模災害発生時の地域応援体制の連携整備
- ・ 若者の安心安全のため、地域の見守り支援、就労斡旋、若年層の貧困対策に取組みたい。
- ・ 施設給食を廃棄する分（急なキャンセル等）のフードロス解消を地域還元につなげたい。
- ・ 子どもの居場所づくりや食事提供
- ・ 低所得者等への食や学びの場の提供。
- ・ 高齢者を対象とした、買い物代行サービスや買い物バスツアー等を行えればと思う。
- ・ 子どもとその家庭(家族)を支え、虐待・孤立を予防できるような仕組みを考えていきたい。
- ・ 小中学校の総合的学習を通じた知的・発達障害の理解促進
- ・ 児童、障害、高齢の区内社会福祉法人連絡会を作り、取組みたい。

## II 調査結果の詳細

### 1 回答施設の状況

- ◇ 「知的発達障害部会」が109件（35%）、「東京都高齢者福祉施設協議会」が91件（30%）、「保育部会」が29件（9%）であった。
- ◇ 事業形態別では、「通所事業」が188件（61%）、「入所事業」が159件（51%）、「相談事業」が35件（11%）であった。

#### (1) 所属の部会（13項目）

「知的発達障害部会」が109件（35%）、「東京都高齢者福祉施設協議会」が91件（30%）、「保育部会」が29件（9%）であった。

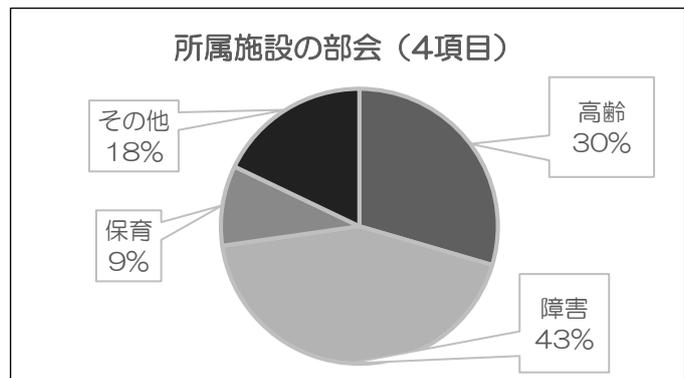
	回答数	%
1.知的発達障害部会	109	35%
2.東京都高齢者福祉施設協議会	91	30%
3.保育部会	29	9%
4.児童部会	25	8%
5.身体障害者福祉部会	19	6%
6.母子福祉部会	10	3%
7.障害児福祉部会	5	2%

	回答数	%
8.更生福祉部会	5	2%
9.救護部会	5	2%
10.乳児部会	3	1%
11.医療部会	3	1%
12.婦人保護部会	1	0%
その他	3	1%
	308	100%

#### (2) 所属施設の部会（4項目）

「障害」が133件（43%）、「高齢」が91件（30%）、「保育」が29件（9%）であった。

No.		件数	%
1	高齢	91	30%
2	障害	133	43%
3	保育	29	9%
4	その他	55	18%
		308	100%



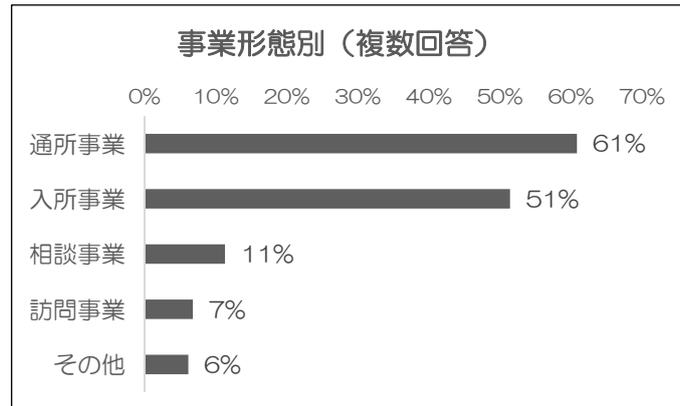
※「障害」は、身体障害者福祉部会、知的発達障害部会、障碍児部会が含まれる

※「その他」には、医療部会、更生福祉部会、救護部会、児童部会、乳児部会、母子福祉部会、婦人保護部会、その他が含まれる

### (3) 事業形態別（複数回答）

「通所事業」が188件（61%）、「入所事業」が159件（51%）、「相談事業」が35件（11%）であった。

No.		回答数	308件中
1	通所事業	188	61%
2	入所事業	159	51%
3	相談事業	35	11%
4	訪問事業	21	7%
5	その他	19	6%



## 2 地域公益活動の取組みの有無

- ◇ 東京都地域公益活動推進協議会会員の約8割が地域公益活動に取り組んでいた。
- ◇ 種別ごとでは、保育は回答数が29件と少ないものの、9割が地域公益活動に取り組んでいた。障害、高齢は7割強であった。
- ◇ 事業別ごとでは、「通所事業」「相談事業」の8割が取り組んでいた。「入所事業」は75%と平均より低かった。

### (1) 地域公益活動の取組み有無

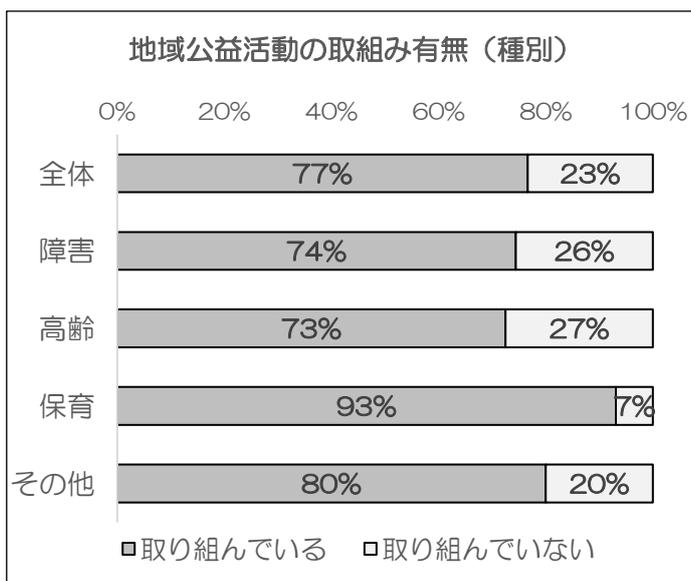
「取り組んでいる」が203件（73%）、「取り組んでいない」が76件（27%）であった。

No.		回答数	308件中
1	取り組んでいる	203	73%
2	取り組んでいない	76	27%
		308	100%

### (2) 地域公益活動の取組み有無（クロス集計\_種別）

「取組んでいる」が最も多いのは「保育」が93%、「その他」が80%、「障害」が74%、「高齢」が73%であった。

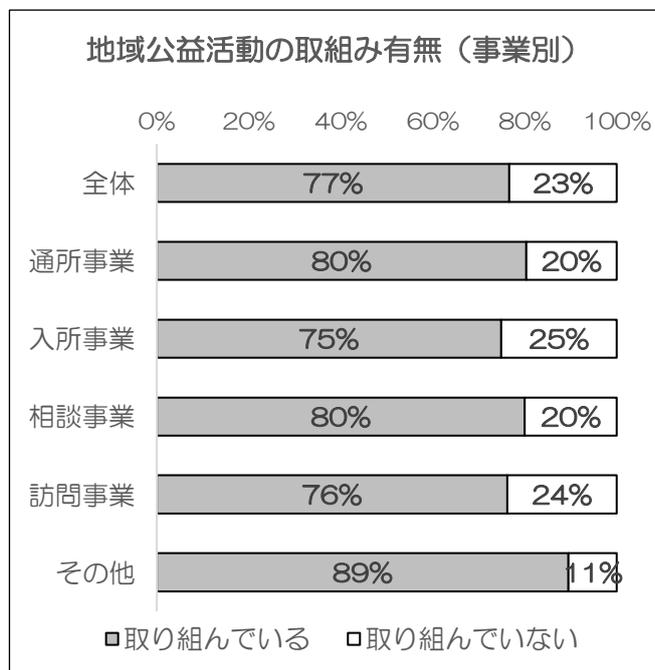
	合計	取組んでいる	取組んでいない
全体	308	236 77%	72 23%
障害	133	99 74%	34 26%
高齢	91	66 73%	25 27%
保育	29	27 93%	2 7%
その他	55	44 80%	11 20%



### (3) 地域公益活動の取組み有無（クロス集計\_事業別）

「取組んでいる」が最も多いのは「その他」が89%、次いで「通所事業」「相談事業」が80%であった。

	合計	取組んでいる	取組んでいない
全体	308	236 77%	72 23%
通所事業	188	151 80%	37 20%
入所事業	159	119 75%	40 25%
相談事業	35	28 80%	7 20%
訪問事業	21	16 76%	5 24%
その他	19	17 89%	2 11%



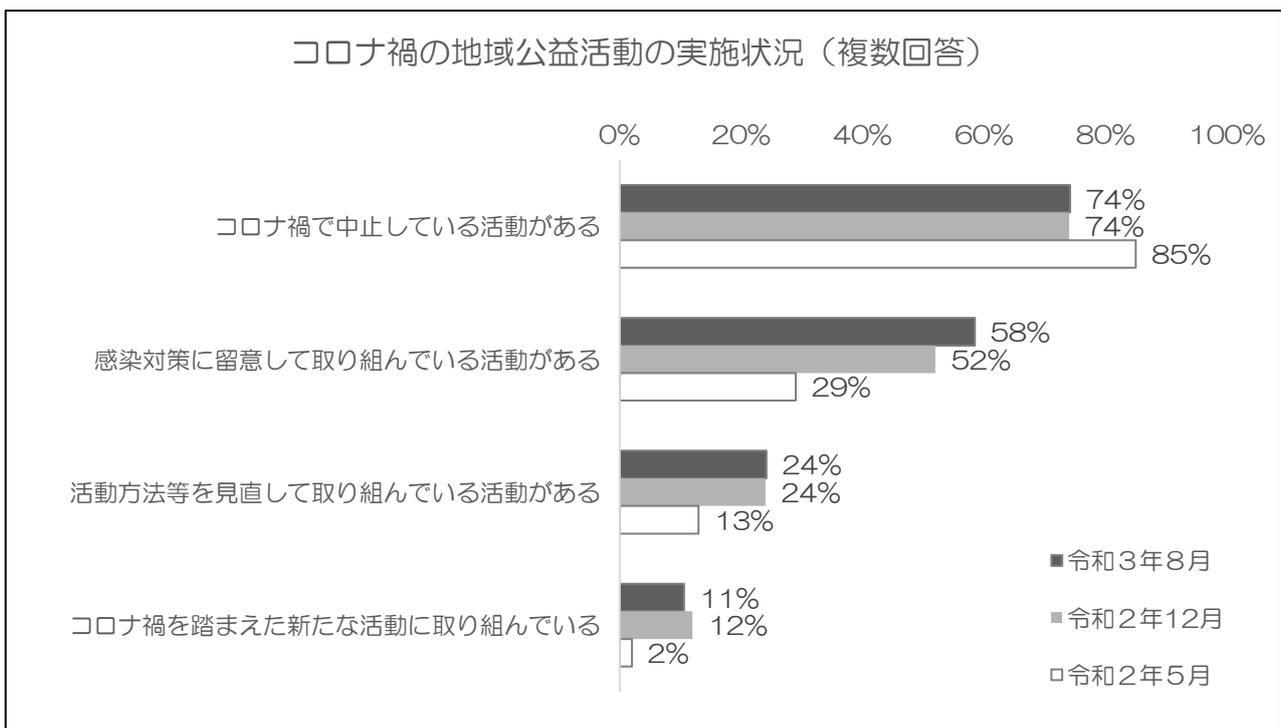
### 3 コロナ禍の地域公益活動の取組み状況（複数回答）

- ◇ 前回調査（R2.12）と比較すると、「感染対策に留意して」は6%増え、「活動中止」「活動方法等を見直して」「新たな活動」は大きな変化はなかった。
- ◇ 種別のクロス集計では、高齢は「感染対策に留意して」が平均より少なかった。障害は「感染対策に留意して」が平均より多かった。保育は「感染対策に留意して」は少なく、「活動方法を見直して」が多かった。
- ◇ 事業別のクロス集計では、相談事業は「感染対策に留意して」「活動方法等を見直して」が平均より多かった。訪問事業は「活動中止」「活動方法を見直して」が多かった。

#### (1) コロナ禍の地域公益活動の実施状況（複数回答）

前回調査（R2.12）と比較すると、「感染対策に留意して」は6%増えていた。「活動中止」「活動方法等を見直して」「新たな活動」は大きな変化はなかった。

	R3.8月調査		R212月調査		R2.5月調査	
	回答数	236件中	回答数	203件中	回答数	96件中
1. コロナ禍で中止している活動がある	175	74%	150	74%	82	85%
2. 感染対策に留意して取り組んでいる活動がある	138	58%	106	52%	28	29%
3. 活動方法等を見直して取り組んでいる活動がある	57	24%	49	24%	12	13%
4. コロナ禍を踏まえた新たな活動に取り組んでいる	25	11%	24	12%	2	2%



## (2) コロナ禍の地域公益活動の実施状況 種別ごとクロス集計（複数回答）

高齢は「感染対策に留意して」が全体より少なかった。障害は「感染対策に留意して」が全体より多かった。保育は「感染対策に留意して」は少ないものの、「活動方法を見直して」が多かった。

	合計	活動中止	感染対策に留意して	活動方法等を見直して	新たな活動
全体	236	175	138	57	25
		74%	58%	24%	11%
高齢	66	52	30	14	8
		79%	45%	21%	12%
障害	99	74	64	24	9
		75%	65%	24%	9%
保育	27	22	13	11	2
		81%	48%	41%	7%
その他	44	27	31	8	6
		61%	70%	18%	14%

## (3) コロナ禍の地域公益活動の実施状況 事業別ごとのクロス集計（複数回答）

通所事業、入所事業は全体と同様の傾向であった。相談事業は「感染対策に留意して」「活動方法等を見直して」が全体より多かった。訪問事業は「活動中止」「活動方法を見直して」が多かった。

	合計	コロナ禍で中止	感染対策に留意して	活動方法等を見直して	新たな活動
全体	236	175	138	57	25
		74%	58%	24%	11%
通所事業	151	115	86	40	12
		76%	57%	26%	8%
入所事業	119	89	72	27	14
		75%	61%	23%	12%
相談事業	28	20	19	10	5
		71%	68%	36%	18%
訪問事業	16	13	9	7	1
		81%	56%	44%	6%
その他	17	11	11	1	1
		65%	65%	6%	6%

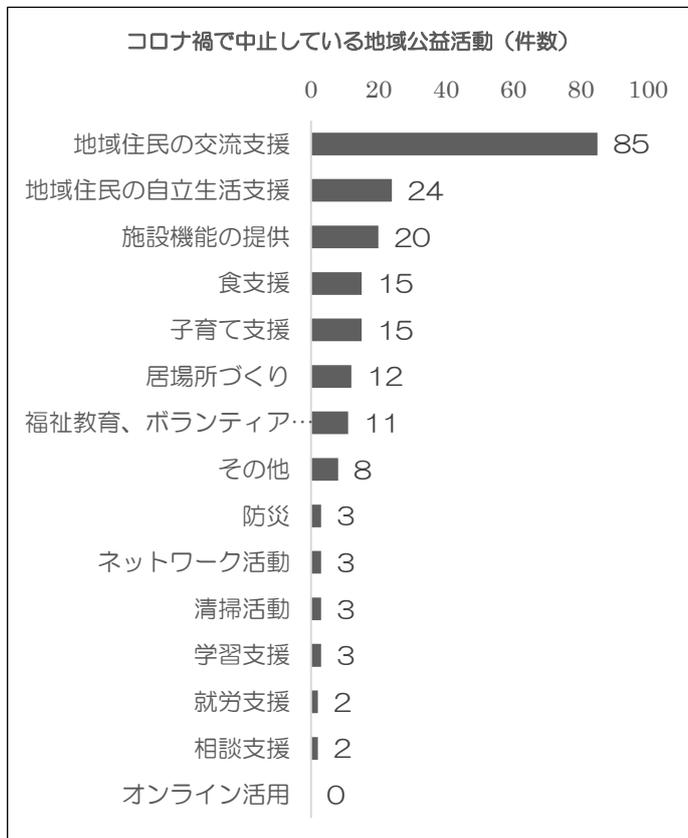
#### 4 コロナ禍で中止している地域公益活動の状況

◇ 地域住民とかかわる活動や、福祉施設に不特定多数の人を招き入れる活動が中止していた。

##### (1) コロナ禍で中止している地域公益活動の状況

「地域住民の交流支援」が85件、「地域住民の自立生活支援」が36件、「施設機能の提供」が20件であった。

No		件数
1	地域住民の交流支援	85
2	地域住民の自立生活支援	24
3	施設機能の提供	20
4	食支援	15
5	子育て支援	15
6	居場所づくり	12
7	福祉教育、ボランティア受入れ	11
8	その他	8
9	防災	3
10	ネットワーク活動	3
11	清掃活動	3
12	学習支援	3
13	就労支援	2
14	相談支援	2
15	オンライン活用	0
		206



##### (2) コロナ禍で中止している地域公益活動例（抜粋）

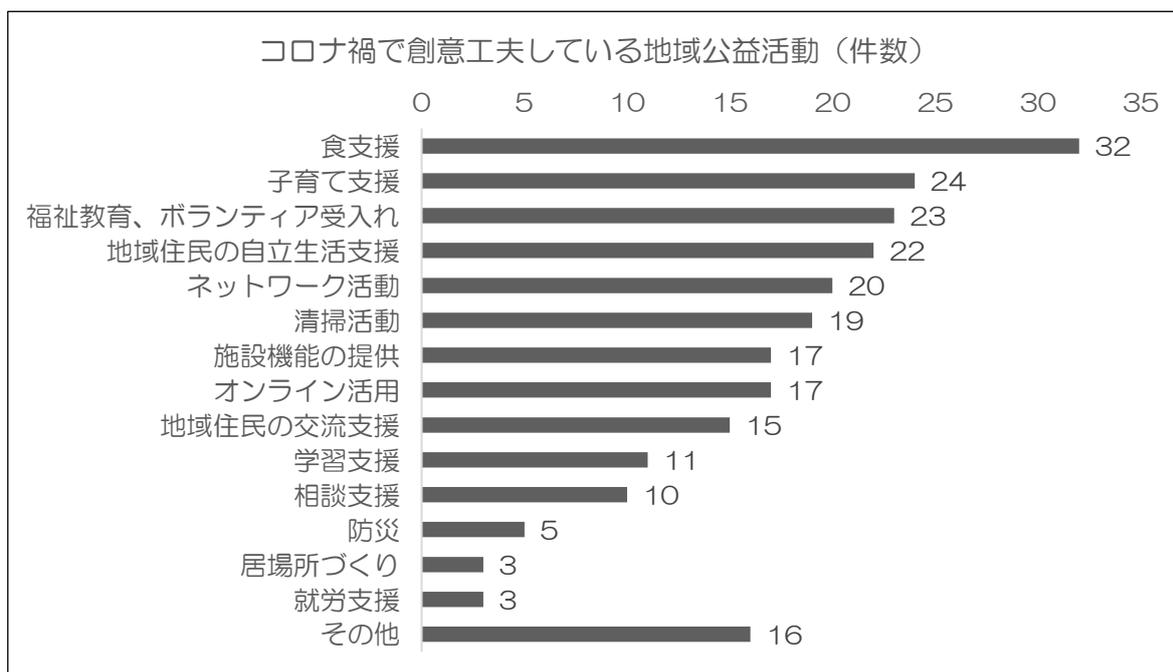
- 地域住民に事業所の芝地や一部設備を貸し出して開催していたフリーマーケットを中止。コロナ禍が落ち着いたタイミングで再開を検討。
- 病院や福祉施設と協働で行う地域イベントを中止している。
- リハビリ活動の地域開放などを中止。現時点では見通し不能。
- 高校生を受け入れ、施設での活動に利用者とともに参加してもらい、地域の障害者の生活を知ってもらう機会を作っていた。学校側の希望もあり、中止としている。
- 介護予防教室等へのホール貸し出し、自治会と共催行事は昨年から中止している。
- 地域の福祉施設と共同して子ども食堂を実施していた。今後については感染状況を見極めて検討。
- 地域園庭開放、子育て支援相談、夕涼み会、卒園児親睦会、地域親睦会は中止。
- はたらくサポートとうきょうは、コロナ感染拡大が落ち着いてから受入再開予定。

## 5 コロナ禍で創意工夫している地域公益活動

- ◇ 最も多かったのは「食支援」が32件、ついで、「子育て支援」が24件、「福祉教育、ボランティア受入れ」が23件であった。新たな活動の多くは、オンラインを活用していた。
- ◇ 令和2年12月調査と比較して増えている活動は、「ネットワーク活動」が多く、ついで「食支援」「子育て支援」「相談支援」であった。

### (1) コロナ禍で創意工夫している地域公益活動の状況

No		全体	感染対策した活動	見直した活動	新たな活動	R2.12 回答数	増減
1	食支援	32	20	7	5	23	9
2	子育て支援	24	13	9	2	15	9
3	福祉教育、ボランティア受入れ	23	10	12	1	21	2
4	地域住民の自立生活支援	22	12	4	6	30	-8
5	ネットワーク活動	20	16	2	2	10	10
6	清掃活動	19	17	2	0	15	4
7	施設機能の提供	17	14	1	2	14	3
8	オンライン活用	17	4	6	7	14	3
9	地域住民の交流支援	15	7	7	1	17	-2
10	学習支援	11	10	0	1	5	6
11	相談支援	10	6	2	2	1	9
12	防災	5	5	0	0	3	2
13	居場所づくり	3	3	0	0	12	-9
14	就労支援	3	3	0	0	4	-1
15	その他	16	12	3	1	9	7
		237	152	55	30		



## (2) コロナ禍で創意工夫している地域公益活動（カテゴリー別）

### <食を通じた支援>

- ・ フードバンクから預かった食品を、生活困窮している方（希望者）へ渡す活動。4月にNPO法人フードバンクよりフードパントリー設置の相談あり、地域にもニーズがあるとのことで引き受けた。その後準備を進め8月から実施。
- ・ ひとり親家庭の小中学生を対象にした学習支援事業について、食事づくりが難しくなったため、食材の提供やレシピの提供を行っている。
- ・ 地域に住んでいる高齢者に夕食の配食を行っている。直接手渡ししないように工夫し、玄関先で直接対面しないようにしている。利用される方からの期待度が高い事業です。
- ・ 通所事業で作っているパンを法人としてホームレス支援へ提供、受け渡しはホームレス支援事業者へ職員が行う。
- ・ 子ども食堂を月1回から月2回に増やし、食堂開放をお弁当配布に変更。地域食堂（誰でも食堂）から困窮者・障害・子どもを中心に変更し、一部には無料チケットを事前配布。

### <子育て支援>

- ・ 未就園児の家庭を対象とした活動は、人数を絞り、検温、手洗いや手指の消毒、マスクの着用を徹底している。
- ・ 「里山で遊ぼう会」を三密対策して行い、親子で楽しんでいます。
- ・ 地域の保育者向けの研修をリモートに変更
- ・ 夏休み工作教室を毎年8月に開催。法人内各事業所でブースを設け、地元の子供を対象に地域交流を行っていた。今年はWEB開催とした。

### <福祉教育、ボランティア受入れ>

- ・ 中高生のボランティアの受け入れや保育実習生の受け入れを実施している。事前の健康管理の報告（外出記録）や当日の検温、消毒の徹底。人材育成の観点から注意を払い実施している現状。
- ・ 園内で行っていた小学生と園児の交流は、マスクをして園庭で交流している。
- ・ 対面で行っていた、地域に住む障害のある方向けの講座をオンラインに切り替えて実施。
- ・ 隣接の小学校に向けての介護教室の実施、車いす体験施設
- ・ 「介護の日イベント」をオンラインでの取り組みを中心に展開予定。一部イベントは、感染予防対策を実施し、少人数での参加型イベントを実施予定（スマホ教室、他）。
- ・ 障害者差別解消等、啓蒙活動を利用者作品展の形で実施してきましたが、専用のホームページを立ち上げてWEB上での作品展示を行った。
- ・ 近隣高校の授業の一環である高齢者との交流を、リモート形式に変更し実施した。

### <地域住民の自立生活支援>

- ・ 買物送迎支援事業を安全、安心をモットーに1回の参加人数を2~3人に減らし、車両の除菌と換気、乗車前に手指消毒と検温、買物先ではカートの除菌、マンツーマンでサポート、食事は除菌と三密を避けた感染防止対策をしている。
- ・ 高齢者や地域住民向けの運動や趣味活動の講座について、外に出かけること自体がフレイルの対策

となるため継続。1回あたりの参加人数を減らし、実施回数を増やすなどで対応している。

- ・ 認知症カフェは中止としたが、参加していた高齢者とボランティア等向けに、関係を閉ざさないように、通信を作成して届けている。
- ・ 支え合い会議のコーディネーターを当法人が受けている。長引く外出制限等により介護予防を必要とする人が多くなっているため、地域の専門職に呼びかけ、介護予防のユーチューブ配信を準備中。

### <ネットワーク活動>

- ・ 市社協や市社福連絡会と連携し、お昼ご飯お届け事業、フードドライブ事業に参画している。
- ・ 古本の回収の売り上げにより、子供食堂等への支援市内社会福祉法人連絡会の一員として、フードドライブに参画。
- ・ 社会福祉法人連絡会に参画。例年はポッチャ体験会などを開いていたが、今年度は密などを避ける形での「おたよりでつなぐまごころプロジェクト」を実施。
- ・ 暮らしの相談ステーション。相談があった際は来援された場合には検温、消毒をしていただき、玄関に近い相談室で話を聞く。

### <清掃活動>

- ・ 官公需で行っている公園清掃のノウハウを使い、ご近所の神社の落ち葉清掃を安価で行っている。
- ・ 利用者と職員で保育園周辺の美化活動を実施。手袋・エプロンを着用、トング等を使用し、直接ゴミに触れないよう感染防止に努めている。
- ・ 園児による地域のごみ拾い活動、
- ・ 月1回、施設職員による地域清掃。感染症対策として参加人数を制限し、手袋、マスク着用、一定の距離を保ち実施している。
- ・ 「クリーンウォーキング（町内を歩きながら道路のごみ拾い活動）」マスク着用や密に配慮。

### <施設機能の提供>

- ・ 近隣の小学校へ出張授業の代替えとして、授業に必要な器具の貸し出しや使い方について、教諭の方々にお伝えして授業を実施してもらっている。
- ・ 地域交流ルームを近隣の高齢者の会の活動に無料でお貸ししている。施設の玄関を通らないで入れるようにしている。
- ・ 「学習支援教室の会場貸出（敷地内の別棟を毎週2日）」近隣の中学生を対象とした子どもの健全育成事業への協力。マスク着用、使用前後の消毒と喚起、密に配慮。
- ・ 子ども食堂等で使用していない日・時間帯に、他のサークルや公益的活動に対し、活動の場として提供している。利用するメンバーやスタッフの検温、体調確認、マスク着用の徹底、テーブルへのアクリル板の設置等

### <オンライン活用>

- ・ 企業ボランティアと一緒にオンラインとプログラミングを使ったアート活動を進めている。
- ・ 高齢者支援センターとして、集いの場に行くことが出来ず生活不活性、下肢筋力低下を心配される住民の声が多いため、オンラインを使った体操教室を開催。
- ・ ZOOMによる地域保護者との相談など

- ・ 地域関係機関との会議はオンライン等を使用している

#### ＜地域住民の交流支援＞

- ・ お祭りや防災活動については、規模を縮小して3密にならない様に配慮して実施
- ・ 園行事の体験等は広く告知をせず、小学校区程度にとどめ、人数を絞っている。
- ・ これまで直接訪問して、交流を行ってきた地域の保育園、小学校、中学校、高校などと、メッセージでの交流に変えて交流を図っている。

#### ＜学習支援＞

- ・ 中学生の学習支援（場所の提供・通訳など）不登校の中学生の活動支援（創作活動など）
- ・ 施設を退所したが継続的な見守りが必要な子どもについては、検温・手洗い・手指の消毒を徹底し、施設を利用した学習支援、
- ・ ひとり親家庭の小中学生を対象にした学習支援事業について、オンラインを活用した体験プログラムを実施し、学習の際、こまめに消毒を行い、子どもたち同士の距離を開けるなど、工夫して継続。
- ・ 夕食付学習支援、子ども食堂を実施。参加に関する条件、注意事項を書面にし、保護者に署名いただく。黙食の徹底。

#### ＜相談支援＞

- ・ 福祉関連を中心とした何でも相談受付。マスク着用、アクリル板設置
- ・ 地域障害者向け総合相談窓口「よろず相談室」の運営 ～ 主に電話やメールでの対応障害種別に関係なく様々な相談に対して話を聞き、たらいまわしや縦割り対応にならないよう努めている。
- ・ 特に高齢者のICTの活動に力を入れています。緊急事態宣言下でインターネットにアクセスできない方たちが情報に取り残され、ワクチンの予約すらできないという現状を目の当たりにし、1週間に1回スタッフが「よろず相談」という形でスマートフォンの初歩的な質問を受ける、専門家に来てもらう講座など段階的にさまざまな支援を行っています。

#### ＜その他＞

- ・ 防災体制の連携（災害発生時の施設利用）について、地域関係者と協議し、感染症対策に基づいた内容に変更をしている。
- ・ 認知症がある地域の高齢者・家族向けに認知症カフェの開催。
- ・ 中間的就労を継続している。

### (3) コロナ禍で創意工夫している地域公益活動（特徴的な取組み）

#### **長淵福祉会 カントリービラ青梅** NPO と子ども食堂・フードバンクを立ち上げ

子ども食堂にて、食事提供と学習支援を週1回開催。開催日以外は、交流スペースとして地域の団体に貸出し、体操教室やカフェ等に利用。2019年にフードバンク青梅を立ち上げ、活動するNPOや個人へ食材を提供してきた。今年7月からは、コロナ禍で新たに生じた食材提供ニーズに幅広く対応すべく、地域のNPO・ボランティアグループとフードパントリーOMEを立ち上げ、その中で食材の集配拠点としての機能を果たすようになった。

#### **フロンティア いけぶくろ茜の里** 利用者が作ったパンをホームレス支援団体に提供

地域の学習支援に通う子どもたちに、通所事業で利用者が作ったパンやクッキーを無償提供。利用者とともに会場まで運び、子ども達の喜ぶ様子がやりがいにもつながっている。地域の子どもの食堂へのパンの提供も9月から開始。二週に一度、作ったパンをホームレス支援団体に提供している。

#### **アゼリヤ会 みやま大樹の苑** 市・社協と連携したフードパントリー

コロナだからこそ必要な取組みをということで、市・社協・団体にて仕組みを検討。フードバンク団体の依頼により、8月からフードパントリーを開始。市内4拠点のうちの一つとなり、地域の生活に困っている方（希望者）へ食品をお渡ししている。施設内に入らずに済むよう玄関で対応。

#### **武蔵野 ゆとりえ** 応援弁当を200円で提供

経済的に大変な方を念頭におき、週1回昼食弁当を200円で提供。フードロス対策を前面に出し、子育てや介護、学生などへの応援弁当としている。

#### **賛育会 清風園** 中学校の敷地を借りてお弁当販売とフードバンク

施設で会食していた「子ども食堂」を、地域の中学校の駐車場をお借りしてお弁当販売へ変更。子どもたちだけでなく、地域住民に対象を拡大した。同じ場所でフードバンクも実施。

#### **朝日会 石井こども園** オンライン検討も、対面で子育て支援

お話ひろばや離乳食会など、コロナ禍前は子育て支援室で実施していたが、密を回避することが出来なかったため活動を停止していた。WEBで行おうと試みたが、絵本や紙芝居の作者の許可を得ないといけないため難しかった。地域の保護者から「WEBより対面の方が良い」という声が多く、参加人数を2組にしてお話会を実施。

#### **青梅ゆりかご保育園 青梅ゆりかご第二保育園** 短時間のボランティア体験

コロナ前は地域の子どもたち対象に、夏の学習会や体験活動、昼食の提供を行っていた。コロナ禍では卒園児を中心に、夏のボランティア体験に変更して実施。一時間程度の軽作業の手伝いや短時間の園児との関わりを体験した。

#### **東京援護協会 東が丘福祉工房** ボランティアを学ぶ講座を開催

ボランティアを実施したいが、コロナ禍で受け入れ先がない中で、ボランティアに興味のある地域住民に向けて、車イスの操作方法や、食事の際に使用する自助具等の紹介など介助者養成講座を開催。地域の方々とのつながりを継続していくために、直接的な関わりだけではないボランティアの受け入れを行った。

#### **平尾会 ひらお苑** 感染対策して買い物サービスを継続

市と協力しながら、交通不便地域に8人乗りワゴン車を週1回運行し、主に高齢者の買い物や近隣の病院に行くための足代わりとなっている（無料）。感染対策として、乗車時の検温や消毒、降車時の車両消毒、運転手と後部座席との間仕切りをしている。

#### **二葉保育園 二葉学園** 感染対策してリラックスヨガの開催

地域リラックスヨガは、人数を減らし距離を保って実施。消毒箇所等リストにし使用前後で消毒。利用者の健康調査カードの記入をしている。

#### **東京聖労院 清雅苑** 施設の屋外敷地をパン販売等に貸し出す

コロナ禍前は、場所の貸し出しとして、デイサービスが利用しない日曜日に介護予防の体操を行う団体への場の提供や、子ども食堂団体に地域交流スペースの貸出等を行い、手伝いを担っていた。現在はコロナ禍で施設内の貸し出しは難しいが、施設外の敷地内で何かできないか検討し、障がい者団体が行う出張パン販売や社協が行うフードバンクの会場として利用していただいている。

#### **多摩養育園 養護老人ホーム竹の里** 福祉なんでも相談の実施

コロナ禍にあり、いろいろな悩みや困りごとが急増している中、地域の相談窓口として「福祉なんでも相談」を開設した。

#### **芙蓉会 町田市南第1高齢者支援センター** オンライン初心者教室の開催

高齢者支援センターとして、憩いの場に行くことができず、生活不活性化、下肢筋力低下を心配する住民の声が多数寄せられたことから、オンライン初心者のための教室やオンラインを使った体操教室を実施。

#### **武蔵野会 リアン文京** 高齢者向けのスマホの使い方相談を開催

高齢者や地域住民向けの運動や趣味活動の講座は、外に出かけること自体がフレイルの対策となるため継続実施。1回あたりの参加人数を減らし、実施回数を増やすことで参加の機会を保障。緊急事態宣言下でインターネットにアクセスできない方たちが情報に取り残され、ワクチンの予約すらできないという現状を目の当たりにし、高齢者のICTの活動に力を入れている。週1回スタッフが「よろず相談」という形でスマホの初歩的な質問を受け、専門家に来てもらう講座などを開催。

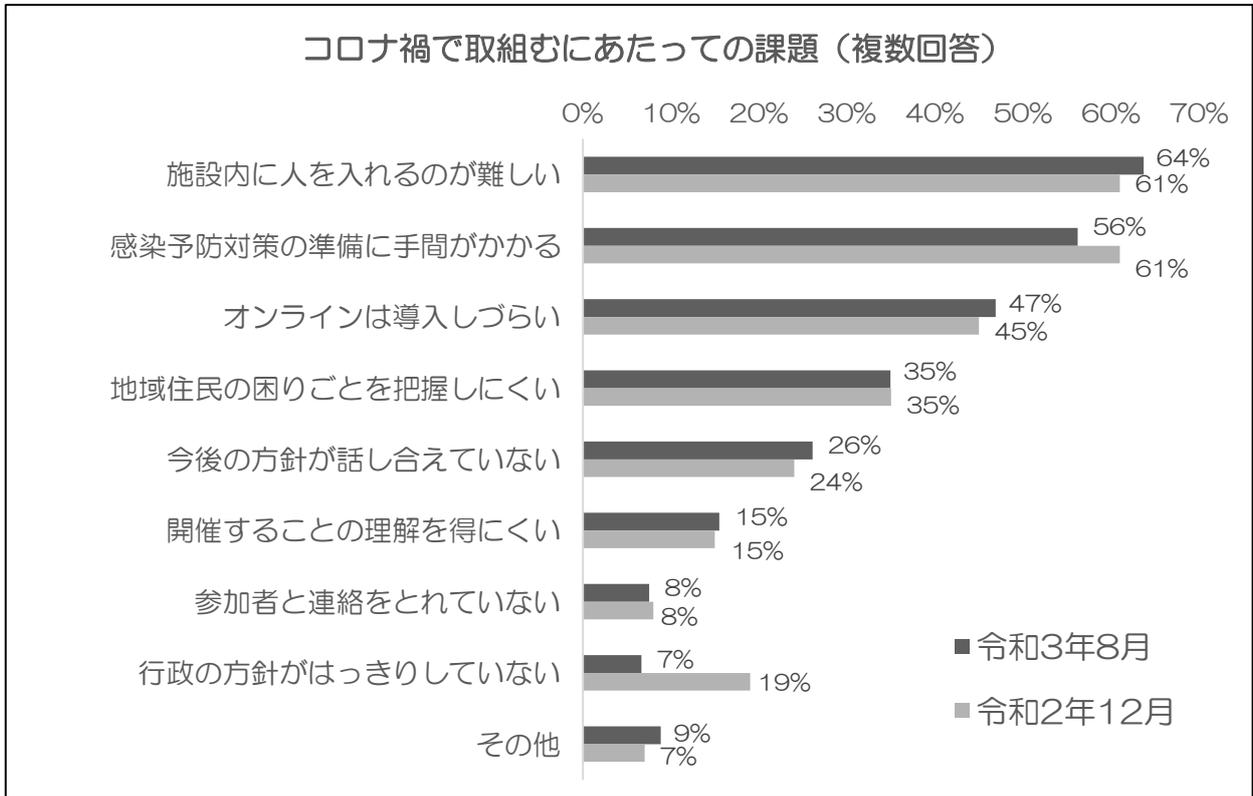
## 6 コロナ禍で地域公益活動を取組むにあたっての課題（複数回答）

- ◇ 最も多かったのは「施設内に人を入れるのが難しい」が144件（64%）であった。ついで、「感染予防対策の準備に手間がかかる」が127件（56%）、「オンラインは導入しづらい」が106件（47%）であった。
- ◇ 前回調査（R2.12）と比較すると、「感染予防対策の準備に手間がかかる」「行政の方針がはっきりしていない」が減少し、「施設内に人を入れるのが難しい」が増えていた。

### （1）コロナ禍で地域公益活動を取組むにあたっての課題（複数回答）

最も多かったのは「施設内に人を入れるのが難しい」が144件（64%）であった。ついで、「感染予防対策の準備に手間がかかる」が127件（56%）、「オンラインは導入しづらい」が106件（47%）であった。

No		回答数	226件中
1	開催場所が施設内であり、不特定多数の方を施設に入れるのが難しい	144	64%
2	感染予防対策のため、申込制や人数制限、広いスペースの確保等、準備に手間がかかる	127	56%
3	オンラインの活用は、参加される方のネット環境など個人差があり導入しづらい	106	47%
4	地域とのかかわりが減少したことで、地域住民の困りごとを把握しにくい	79	35%
5	地域公益活動の今後の方針について話し合いができていない	59	26%
6	地域公益活動を開催することについて、利用者や利用者家族の理解を得にくい	35	15%
7	地域公益活動の参加者と連絡をとれていない	17	8%
8	地域公益活動に対する行政の方針がはっきりしていない	15	7%
9	その他	20	9%



## 7 コロナ禍において地域公益活動に取り組むにあたっての工夫

- ◇ 検温、手洗い、人数制限、換気、住所の登録、ソーシャルディスタンスなどの感染対策の回答が多かった。活動場所を施設内から屋外や地域交流スペースに変更する等の回答もあった。
- ◇ オンラインを活用した会議開催、情報発信の回答が多かったが、利用する方の個人差が大きい、直接的なかわりの代替にはならない等の回答もあった。
- ◇ 情報や食事等を届ける活動に変化、地域課題を把握するなどの回答もあった。

### <感染防止対策の徹底>

- ・ 検温、手洗い、人数制限、換気、住所の登録、ソーシャルディスタンスの推奨
- ・ 施設内にコロナを持ち込まないようにして地域公益活動が出来るように工夫をしたい
- ・ やはり一番重要なことは極限まで、感染症対策を行うことだと思っています。そのベースがなければどんな活動を行っても自己満足で終わってしまうように感じています。最新のエビデンスをもとに、出来る限りの対策を取って来る方もスタッフも安心してできる場を作る必要がある。

### <活動場所の工夫>

- ・ 活動場所は屋外（地域公園）など、ソーシャルディスタンスの確保を行い実施。
- ・ 活動場所を施設内でなく同法人が運営する多世代交流施設の一室を利用している。
- ・ 感染対策が行える場所を地域の方にお借りして開催
- ・ 広く使える地域交流スペースの積極的利用。
- ・ 室内だとスペースに限りがあるため、交流するなどの場合、屋外の敷地の活用を考えていきたい。

### <オンラインの活用>

- ・ オンラインを活用し、必要な情報や企画内容を地域に発信する取り組みを検討している。
- ・ SNS を活用し、参加出来ない方のための情報発信などを行っている。
- ・ オンラインの活用でしようが、参加者の環境は個人差が大きいと考えております。
- ・ オンラインなどの技術は活用していきたいと考えているが、地域公益活動への活用までには施設側・対象者側ともに設備面やリテラシーなどまだ課題が多い。
- ・ オンラインでも可能だが、やはり直接関わり接することに意味があると思うので、コロナが落ち着かないと難しいと考えています。

### <届ける活動に変化>

- ・ ボランティアの方には、新聞など発行し定期的に連絡を取っている。
- ・ お弁当、カフェのテイクアウト
- ・ 直接会うことだけが交流ではないことをふまえ、オンライン、電話、手紙、創作物等を活用した実施の方法を考えたい。

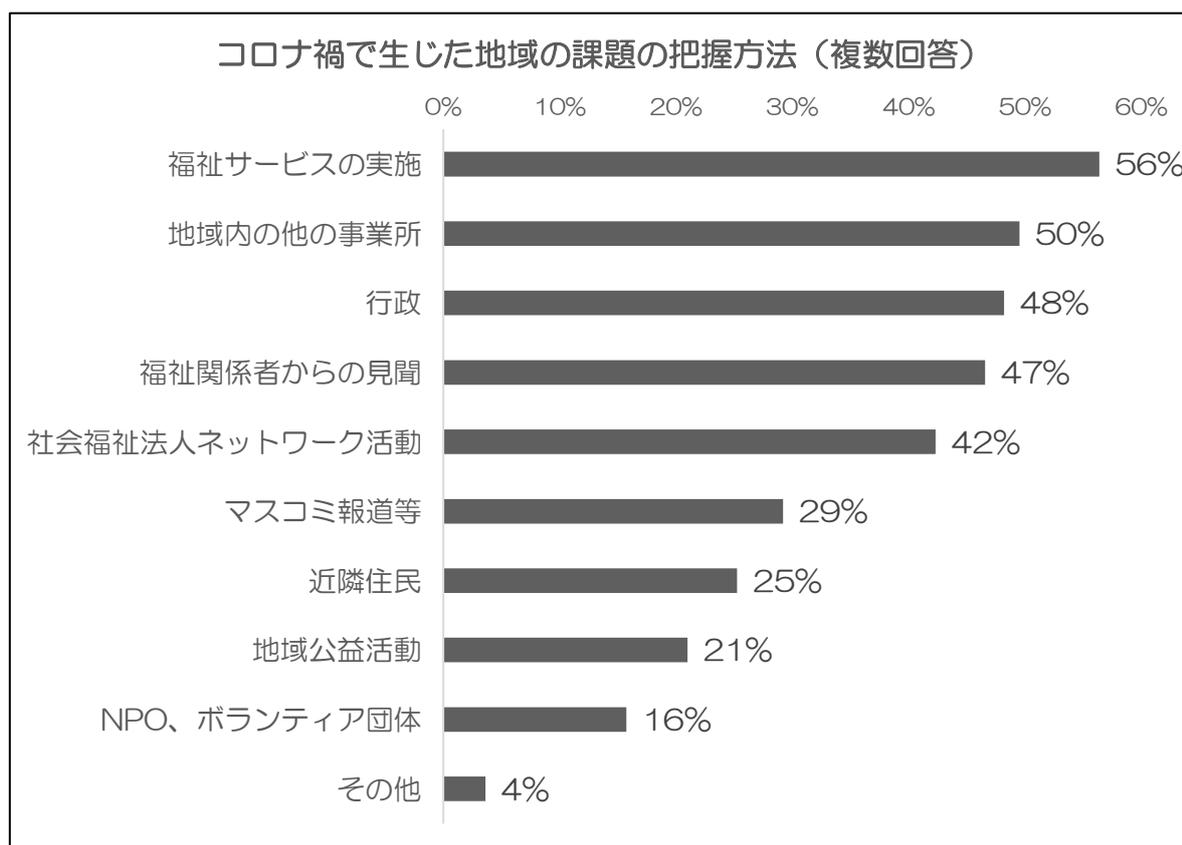
### <地域課題の把握>

- ・ 清掃活動等を通じて地域住民のニーズを探ることへの工夫が必要
- ・ 住民やボランティア、約 180 名の方に「コロナ禍での住民アンケート」を実施し、現在の生活上での困りごと、ボランティアや地域活動に対するニーズを聞き取りした。

## 8 コロナ禍で生じた地域の課題の把握方法（複数回答）

◇ 最も多かったのは、「福祉サービスの実施」が172件（56%）、ついで、「地域内の他の事業所」が151件（50%）であった。「近隣住民」「NPO、ボランティア団体」の回答は少なかった。

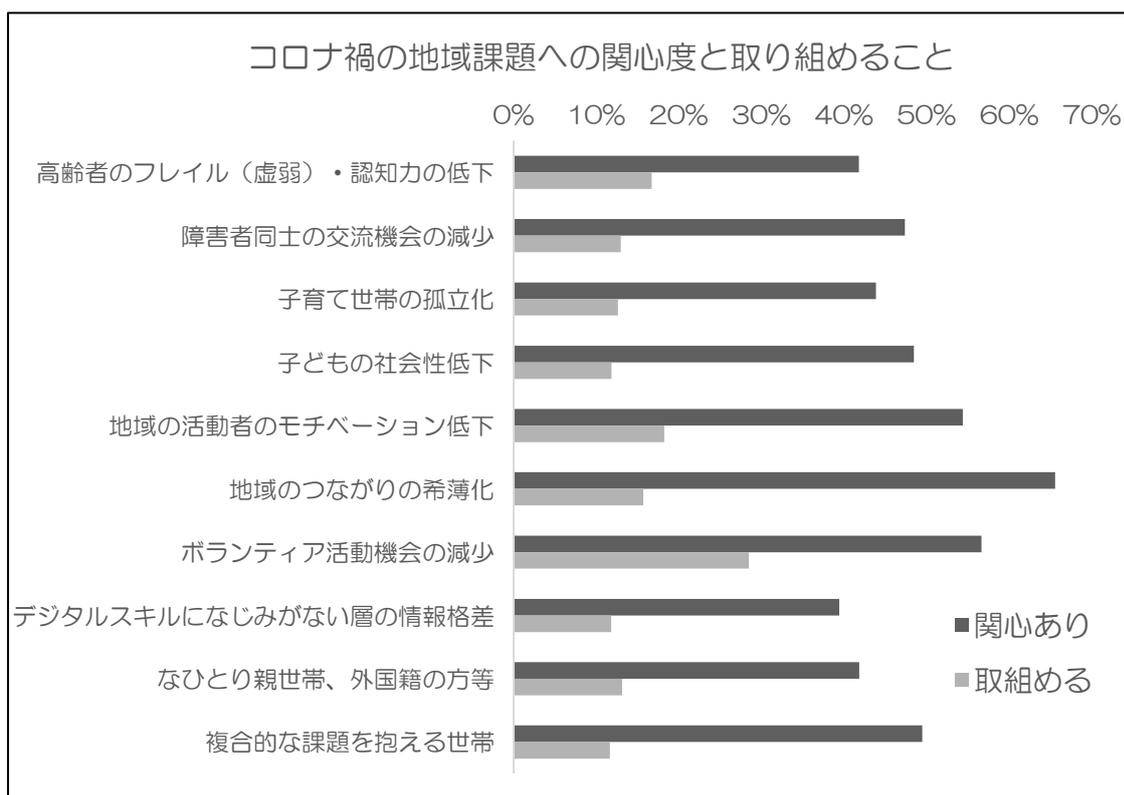
No		件数	305 件中
1	福祉サービスの実施を通して把握している	172	56%
2	地域内の他の事業所を通じて把握している	151	50%
3	行政から把握している	147	48%
4	福祉関係者から見聞きして把握している	142	47%
5	区市町村の社会福祉法人ネットワーク活動を通じて把握している	129	42%
6	マスコミ報道等から把握している	89	29%
7	近隣住民から直接把握している	77	25%
8	地域公益活動を通じて把握している	64	21%
9	NPO、ボランティア団体から把握している	48	16%
10	その他	11	4%



## 9 コロナ禍で顕在化した地域課題への関心度と取り組めること

- ◇ 「関心がある」では、「地域のつながりの希薄化」が192件（66%）、ついで「ボランティア活動機会の減少」が167件（57%）、「地域の活動者のモチベーション低下」が155件（54%）であった。
- ◇ 「取り組める」では、「ボランティア活動機会の減少」が84件（28%）、ついで「地域の活動者のモチベーション低下」が52件（18%）であった。
- ◇ 「関心がある」と「取り組める」の差が多かったのは、「地域のつながりの希薄化への対応」が50%の差、「複合的な課題を抱える世帯」が38%の差であった。

No		関心あり (A)		取り組める (B)		どちらでもない (C)		計		AとBの差	順位
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%		
1	高齢者の交流、居場所が減ったことによるフレイル（虚弱）・認知力の低下への対応	120	42%	48	17%	119	41%	287	100%	25%	10
2	障害者同士の交流機会の減少への対応	135	47%	37	13%	113	40%	285	100%	34%	5
3	子育て世帯の交流の機会が減ったことによる孤立化への対応	125	44%	36	13%	124	44%	285	100%	31%	6
4	親や学校以外の地域の大人との交流が減ったことによる子どもの社会性低下への対応	139	48%	34	12%	114	40%	287	100%	37%	3
5	地域の活動が減ったことによる活動者のモチベーション低下への対応	155	54%	52	18%	78	27%	285	100%	36%	4
6	町会等の行事中止による地域のつながりの希薄化への対応	192	66%	46	16%	55	19%	293	100%	50%	1
7	ボランティア活動機会の減少への対応	167	57%	84	28%	44	15%	295	100%	28%	8
8	デジタルスキルになじみがない層の情報格差への対応	110	39%	33	12%	136	49%	279	100%	28%	8
9	生活環境が不安定なひとり親世帯、外国籍の方等への対応	118	42%	37	13%	127	45%	282	100%	29%	7
10	複合的な課題（8050問題、ダブルケア等）を抱える世帯への対応	140	49%	33	12%	110	39%	283	100%	38%	2



<種別のクロス集計>

「関心あり」「取組める」ともに、それぞれの種別の対象者へのアプローチに関する設問の回答割合が高かった。

No		関心あり				取組める			
		全体	高齢	障害	保育	全体	高齢	障害	保育
1	高齢者の交流、居場所が減ったことによるフレイル（虚弱）・認知力の低下への対応	42%	<b>65%</b>	34%	40%	17%	<b>28%</b>	12%	16%
2	障害者同士の交流機会の減少への対応	47%	40%	<b>67%</b>	25%	13%	2%	<b>26%</b>	0%
3	子育て世帯の交流の機会が減ったことによる孤立化への対応	44%	43%	37%	<b>52%</b>	13%	7%	6%	<b>41%</b>
4	親や学校以外の地域の大人との交流が減ったことによる子どもの社会性低下への対応	48%	47%	40%	<b>74%</b>	12%	12%	11%	15%
5	地域の活動が減ったことによる活動者のモチベーション低下への対応	54%	<b>63%</b>	51%	50%	18%	<b>22%</b>	<b>20%</b>	17%
6	町会等の行事中止による地域のつながりの希薄化への対応	66%	<b>69%</b>	<b>65%</b>	<b>69%</b>	16%	<b>22%</b>	14%	8%
7	ボランティア活動機会の減少への対応	57%	<b>63%</b>	<b>61%</b>	40%	28%	<b>31%</b>	<b>23%</b>	<b>36%</b>
8	デジタルスキルになじみがない層の情報格差への対応	39%	51%	31%	48%	12%	15%	13%	8%
9	生活環境が不安定なひとり親世帯、外国籍の方等への対応	42%	36%	39%	50%	13%	13%	11%	<b>23%</b>
10	複合的な課題（8050 問題、ダブルケア等）を抱える世帯への対応	49%	57%	52%	33%	12%	15%	12%	8%

## 10 「貧困」「低所得」の施設の考え

- ◇ 308 回答数中、219 件の約 7 割が回答していた。「食を通じた支援」「子育て支援」「施設で雇用する」等の施設機能を生かした取り組みをしている、または可能であるという回答がみられた。
- ◇ 「貧困・低所得の実態がわからない」「関心はあるが、具体的な対応は難しい」の回答もあり、区市町村ネットワークや行政等の関係機関と連携して取り組みたい等の回答がみられた。

### <食を通じた支援>

- ・ 施設の有している設備・機能を使って、貧困、低所得者のニーズに対応できればと考えている。例えば厨房設備を活用して、フードドライブ、ひとり親世帯への配食など。
- ・ 施設のカフェが休みの時に子ども食堂のようなことが出来ると思う。
- ・ 困窮している地域のひとり親世帯を対象とした、フードパントリー公益事業を開始した
- ・ 子ども食堂への参画や貧困家庭へのアプローチを子ども関係機関と連携してその役割を果たしていく必要があると感じている。
- ・ 出来ることは多くはないが、安価な応援弁当を始めるなどにより貢献したい。
- ・ 法人内の救護施設で場所を提供している市の学習支援の活動に来ている子供たちへ、同じ NPO 法人より食品提供の申し出あり、8 月より月 2 回、パンを提供する等、つながりが広がっている。
- ・ 就労継続支援 B 型として地域の方々の憩いの場としてのカフェレストランを運営。レストランの機能を活かして、生活困難者向け「誰でも食堂」や配食サービスを検討をしている。

### <子育て支援>

- ・ 保育園として地域の子育て家庭とつながっていききたい。一時保育や子育てひろばにも力を入れ、気になることがあった時には関係機関と連携をとっていききたい。
- ・ 児童養護施設として児童の入所背景に関りが多い事柄であるため、親子交流を行う中で助言や社会資源の活用等を行えればと考えている。
- ・ 生活上の困りごとが、親の育児不安に繋がりやすいので、活動に参加した方と職員のコミュニケーションを通じて、自分の困りごとを聞いてくれる人がいると思ってもらえるようにしている。園とのつながりを通じて、ボランティア活動や行政サービスへつながる見通しを持ってもらえるといい。

### <施設で雇用する>

- ・ コロナによる失業者等で、異業種のキャリアを評価し、年齢に応じた給与を支払えるようになれば、失業者も福祉業界にも良いと思う。
- ・ 福祉業界自体は常に人材不足なので、福祉業界への転職による人材定着～就労者の収入安定につながる流れが出来ることを期待する。
- ・ 地元の母子家庭等の方々を正職員及び有期契約職員として雇用している。

### <就労支援>

- ・ コロナ禍による貧困低所得により、働いていても十分な所得を得られていない状態となっている方の支援の一つとして、就労支援があるため、働く意思がある方への就労を目標とした援助、十分な賃金を得て生活ができるように、社会福祉法人としてできることを考えなければならない。
- ・ 就労支援事業所であり、行政とも協力し、中間就労を実施し、就労支援の機能を活かし就職へ繋げる。

### <貧困、低所得の実態がわからない>

- ・ 貧困、低所得の実情が伝わらない。
- ・ 当事者からの訴えが無いので、対応に着手するきっかけがない状態。大いに関心は寄せている。
- ・ 報道では見聞きしますが、実感としては地域の中では埋もれてしまっている印象。現在は交流もないなかで、地域の課題を把握することにとっても困難。力になれることがあれば尽力したい。都市型軽費老人ホームなので、区内の低所得高齢者の支援を考えていきたい。
- ・ 支援が届きにくい、または、ニーズが見えにくいことを前提に地域活動に取り組んでいます。

### <関心はあるが、具体的な対応は難しい>

- ・ 施設への入室制限や外出制限あり。他者との接触制限も行っている状態であり、施設として動くことができない。
- ・ 現状では、コロナ禍を防ぎながら、事業を継続するので精一杯である。
- ・ 子ども食堂なども興味がありますが、入所施設であり人流を制限しているため、事業として展開するのは難しいと思います。
- ・ この問題解決の重要性は認識しますが、保育園としての接点が見いだせない。
- ・ 「生活困窮」の課題は認識はしているが、具体的に何かをするという段階には至っていない。
- ・ 貧困や低所得、またそこから派生するような差別は、大きな社会問題だと感じている。施設として取り組めることとなると知識不足が否めず、現在取り組んでいる活動の他に、施設運営をしながら何ができるのか考えてしまいます。

### <ネットワークを通じて取組む>

- ・ 行政とも連携して、社会福祉協議会と各社会福祉法人が主体に行動することが大切。
- ・ 施設の性格上、直接に関わる機会はないが、法人連絡会の活動を通して間接的に援助したい。将来的には、施設内で食の提供に取り組みたい。
- ・ 法人事業所として何らかの支援を行いたいが、具体的な活動には至っていない。小規模法人事業所単体ではなく、ネットワークの中に参画することで貢献できれば効果的ではないかと考えます。
- ・ 社協を通じた物資の提供を積極的に行っている

### <行政との連携>

- ・ 行政と相談しながら取り組んでいきたい
- ・ セイフティーネットの活用、行政との連携が必要
- ・ 以前から、利用者及びその家庭においては、このような課題に取り組んできている。新型コロナウイルス感染症まん延の影響で深刻化もあるかもしれないが、やはり行政と地域が連携して課題に向き合うべきと考えている。

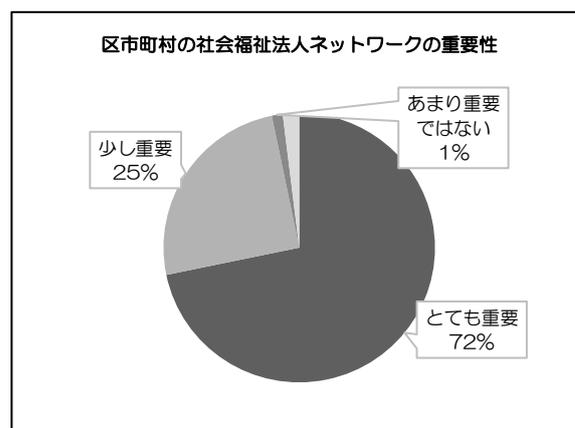
### <関係機関との連携>

- ・ 地域の活動団体、ボランティア活動への交流、連携を通して支援を行いたい
- ・ 地域のNPO法人などとの連携強化を考えている。
- ・ 施設としてできることはないが、情報を得たときに、対応できる関係機関に連絡を入れる。

## 11 区市町村の社会福祉法人ネットワークの重要性

◇ 97%が重要（とても重要+少し重要）と回答していた。

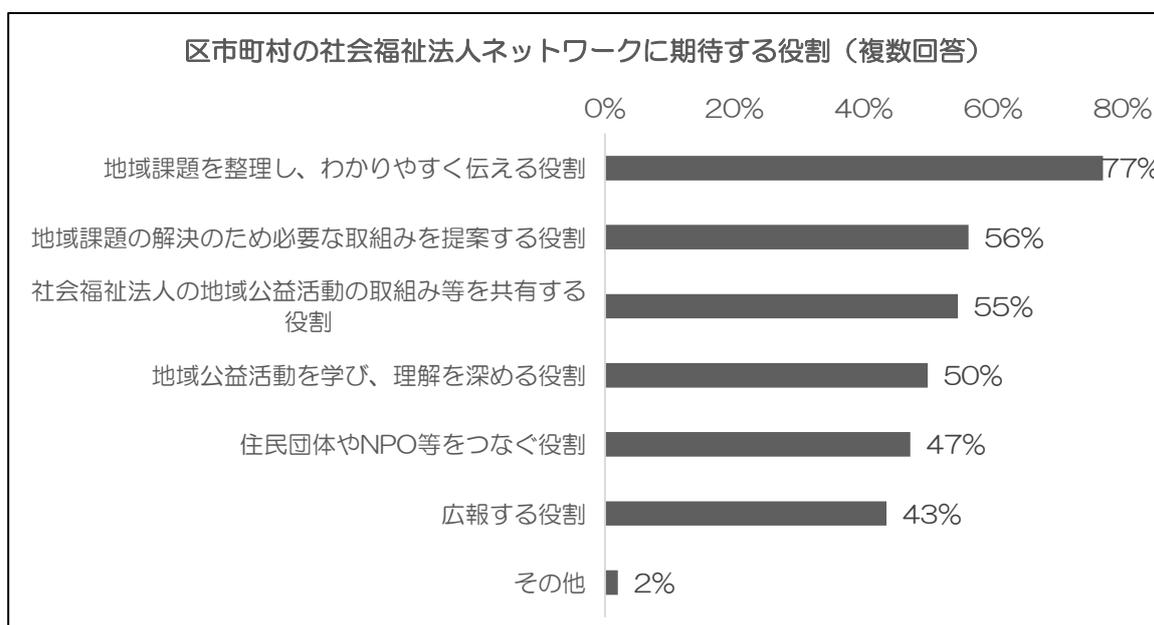
No		件数	%
1	とても重要	221	72%
2	少し重要	77	25%
3	あまり重要ではない	4	1%
4	重要ではない	0	0%
	無回答	6	2%
		308	100%



## 12 コロナ禍の課題に取り組むにあたり、区市町村の社会福祉法人ネットワークに期待する役割

◇ 最も多かったのは「地域の課題を整理し、わかりやすく伝える役割」が230件（77%）、ついで「地域の課題を解決するため、必要な取組みを提案する役割」が168件（56%）、「社会福祉法人が集まり、地域公益活動の取組み等を共有する役割」が163件（55%）であった。

No		件数	299件中
1	地域の課題を整理し、わかりやすく伝える役割	230	77%
2	地域の課題を解決するため、必要な取組みを提案する役割	168	56%
3	社会福祉法人が集まり、地域公益活動の取組み等を共有する役割	163	55%
4	地域公益活動について学び、理解を深める役割	149	50%
5	社会福祉法人が取組む地域公益活動と、住民団体やNPO等をつなぐ役割	141	47%
6	社会福祉法人が取組む地域公益活動を広報する役割	130	43%
7	その他	6	2%



### 13 区市町村の社会福祉法人ネットワークを通じてこれから取り組みたいこと

- ◇ 社会福祉法人・施設が情報共有し、分野をこえた連携による新たな取り組みへの期待が多かった。また、災害時の相互協力・応援協定への期待や、生活困窮者への食や学びの支援などの回答があった。

#### <情報共有>

- ・ 近隣の社会福祉施設の活動を共有することから始め、連携を取ることをしたい。
- ・ 情報を共有し、まずはお互いの法人のことを知り、協力できることを見つけていくことをすすめて、やれることを小さなことから実施していく。それを広報していく。
- ・ コロナ禍で部分的な情報共有しかできていないので、まずは全体での情報共有を図り、ネットワークが母体となつての地域公益活動に繋がれると、各施設が参画しやすいと思う。
- ・ 法人単独では行いにくい事業も、他法人と一緒に取り組むことでできることもあるため、情報共有しながら進めていきたい。
- ・ 感染対策の方法を学び、地域の方との交流の場を作り、顔の見える関係を再構築する。
- ・ 各々の法人が得意とする分野をこえた連携による新たな取り組みや機能性・機動力の創出
- ・ インターネットを活用した情報共有のプラットフォームづくりやルール作り。

#### <災害対応>

- ・ 災害時や感染症への対応
- ・ 災害発生時の応援協定の構築
- ・ 大規模災害発生時の地域応援体制の連携整備
- ・ 災害時における相互協力・支援体制の整備

#### <困窮者支援>

- ・ 困窮者への食事提供、措置入所要件に当てはまらない高齢者の契約入所。
- ・ 低所得者等への食や学びの場の提供。
- ・ 地域に根差して若者が安心安全に生活できるよう、地域の見守り支援、就労斡旋、地域の潜在化した若年層の貧困対策支援に取り組みたい。

#### <食支援>

- ・ 施設給食を廃棄する分（急なキャンセル等）のフードロス解消を地域還元につなげたい。
- ・ 地域の拠点施設として、社会貢献をしていきたいと思います。専門性を活かしたものや、事業所の機能を活かしたもの（配食）を使って考えていきたい。

#### <居場所づくり>

- ・ 障害者の居場所づくり
- ・ 子どもの居場所づくりや食事提供

#### <買い物支援>

- ・ 高齢者を対象とした、買い物代行サービスや買い物バスツアー等を行えればと思う。

- ・ 高齢者無料送迎事業の確立、ネットワーク化

#### <子育て支援>

- ・ 子どもとその家庭(家族)を支え、虐待・孤立を予防できるような仕組みを考えていきたい。
- ・ 子育て、親子支援などの子育てセンター的事業、多世代交流・多機能型の地域福祉事業

#### <福祉教育>

- ・ 小中学校の総合的学習を通じた知的・発達障害の理解促進
- ・ 小・中・高生のボランティアの受け入れ

#### <人材>

- ・ 福祉を担う人材不足への対応
- ・ 施設間職員交流

#### <その他>

- ・ コロナ禍の状況が終息することが重要。
- ・ 住民団体等と社会福祉法人がジョイントして行っている活動の具体的内容を学ばせて頂きながら、自施設の活動に反映させられるものがあればと考えている。
- ・ 運営上、どこの事業所も人手不足により余裕がない中で、ネットワークへの参加協力の継続自体が課題となっているのではないかと。
- ・ 児童、障害、高齢の区内社会福祉法人連絡会を作り、取り組みたい。
- ・ 当事業所所在の区市町村には、社会福祉法人ネットワークが存在していない。

## 14 その他、東京都地域公益活動推進協議会の活動へのご意見等

- ◇ 地域公益活動の先進事例の情報発信、どの法人でも取組める事例の周知の意見が多かった。区市町村域のネットワーク設置への期待、災害対応の意見もみられた。

### <取組み事例を共有して欲しい>

- ・引き続き新鮮な情報、活動のヒントを発信していただきたい。
- ・活動に必要なアドバイス、注意点等をもっと積極的に公表してほしいです。
- ・他の地域にも広げていけるような取り組みがあったら情報発信をお願いしたい。
- ・現状の状況の中、地域公益事業の取り組みは大変だと思いますが、今取り組まれている活動は、継続していけるよう、取組みのヒントをいただきたい。
- ・横の繋がりや、先進事例の紹介を今後も行っていただきたい。
- ・どの法人でもできそうな取り組み事例などを広報し、それを広げていくことの役割を期待している。
- ・地域主催の行事が全て中止になっている。コロナ禍で行える地域住民の為の行事を行えればと思う。

### <連携できる場が欲しい>

- ・社会福祉法人の公益性を再認識し、人材難はじめ各々の法人が抱えている課題についても共有し相互協力を図る取り組みをぜひ進めたい。
- ・地域の連携の場を作っていただきたい。
- ・全ての社協を中心に活動していたのでは進まない。もっと法人連絡会の設置に力をいれるべき。

### <災害対策について>

- ・水害を中心とした防災対策において、社会福祉法人の施設や人材を活用することを速やかに検討して欲しい。

### <全加入組織について>

- ・都内全法人の加入が理想だとは思いますが、まだ組織率は高くない状況と伺っています。より多くの法人に参画していただくための働きかけは継続する必要があると思います。

### <その他>

- ・コロナ禍においても、地域公益活動に取り組むべきということが、大きな負担。職員の身体的・精神的負担が非常に大きい中、いかに取り組めばよいのか、非常に悩ましいと感じています。
- ・行動制限が2年目に入り、直接お会いし、お話をすることもできません。一番気になるのは役職者・担当者が交代されたケースもあり、これまで築き上げた土台が崩れないかが心配です。
- ・コロナが終わることが大切です。